



吹田市の地域福祉に関する状況 —現状と課題—

II. 吹田市の地域福祉に関する状況 —現状と課題—

地域福祉計画を策定するにあたっては、地域の特性やそこでの住民のくらしの実態や課題を浮き彫りにし、その中から地域住民・行政が取り組む地域福祉の課題を明らかにしていくことが、まず第一に必要となってきます。

本章では、既存の統計資料や地域福祉計画策定の過程で取り組んできた「吹田市民のくらしと地域福祉に関する実態調査」「地域検討会（地区の福祉を語るつどい）」等の結果から浮かび上がってくる地域福祉の課題について、検討を加えていきます。

1. 吹田市の変化と地域特性

(1) まちの成り立ちと特色ある地域の形成

本市は、水の豊かさや水運などの交通の利便性から、古くから人々の生活が営まれ、産業や交通の要衝として発達してきました。

近代以降も、鉄道の敷設や国鉄吹田操車場の操業開始、大阪市の商工業の発展に伴い市街化が進み、近郊住宅地として鉄道駅周辺・幹線道路周辺に、それぞれ特色のある市街地が形成されてきました。

昭和30年代の高度経済成長期に入ってから、千里ニュータウンの建設や日本万国博覧会の開催に伴い、広域幹線道路や鉄道網など都市基盤が整備され、これを背景に、大阪都心と直結された江坂地区での商業、業務施設の集積が進み、江坂地区は周辺都市から多くの通勤者を受け入れるまちとなりました。その後も、山田地域を中心とした民間分譲マンションや住宅団地の立地が進みました。

近年では、佐井寺地区の土地区画整理事業などに伴う住宅開発でファミリー向け民間賃貸マンションの建設が進み、また市域の中・南部を中心に単身者向け住宅の建設も多く目にとまるようになり、市域の市街化がほぼ完了した状況となっています。

さらに現在、千里丘地域をはじめ特定の地域で企業所有地の売却に伴う大規模なマンション開発が進んでいます。

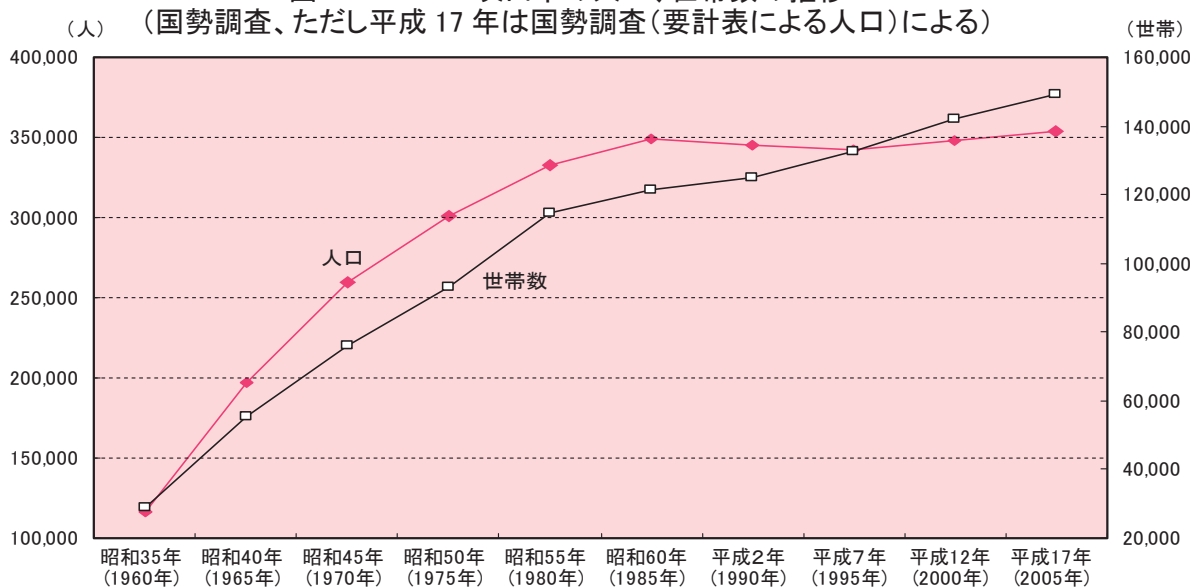
このように、本市の市街地はそれぞれの地形的条件とともに、それぞれの時代の要因を背景とした形成の経緯をもっており、地域に特色のあるまちなみや個性あるコミュニティが形成されています。そのことが住民同士のつながりや住民活動のあり様に、また地域福祉の現状にも少なからず影響を与えています。

(2)人口動向

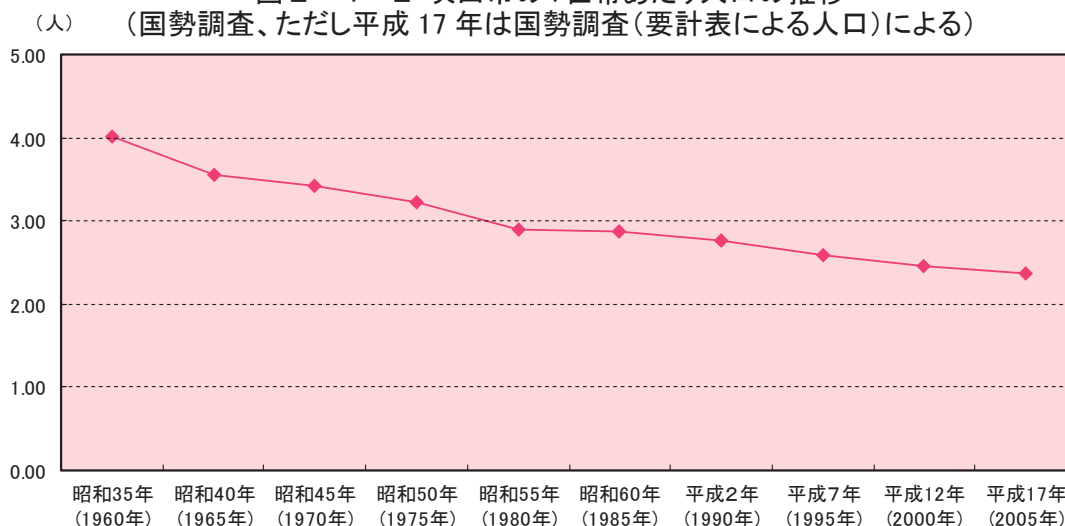
高度経済成長期以降の吹田市の人口、世帯数の変化をみると、昭和35年（1960年）の国勢調査では116,765人（29,080世帯）であったものが、平成12年（2000年）には347,929人（141,846世帯）と、人口で2.98倍、世帯数で4.89倍と大幅に増加しています。一方1世帯あたりの人員は、4.02人から2.45人と大きく減少し、平成12年（2000年）には1人又は2人の小規模世帯が6割近くを占めており、この間の核家族化の進行を物語っています。（図Ⅱ-1-1、図Ⅱ-1-2）

近年の人口の状況をみると、昭和62年（1987年）をピークにそれ以降減少に転じていた人口が、平成6年（1994年）以降再び増加に転じ、近年は微増傾向となっています。また、世帯数も増加傾向にあり、周辺都市と比べても突出した伸びとなっています。この間の人口流入は高層マンション建設など住宅建設戸数の増加に連動したもので、特定地域に集中し、またファミリー層の増加が目立っており、生活施設の不足や環境問題、教育や子育て支援をはじめとしたさまざまな課題の発生が予測されます。

図Ⅱ-1-1 吹田市の人口、世帯数の推移



図Ⅱ-1-2 吹田市の1世帯あたり人口の推移



(3) 少子高齢化の急速な進行

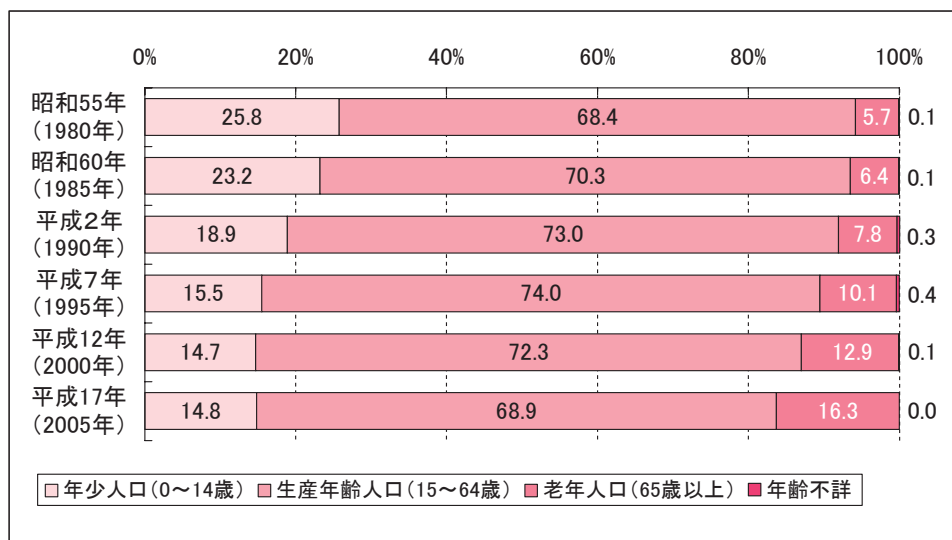
吹田市の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、16.36%（「住民基本台帳」平成17年（2005年）9月末現在）となっており、全国で20.0%（総務省統計局「人口推計月報」平成17年（2005年）10月1日現在）や府下で17.53%（総務省統計局「日本統計年鑑」平成16年（2004年）10月1日現在）の率を下回っているものの、人口の多い団塊の世代が高齢期を迎える時期には一気に高齢化が進行し、10年後の平成27年（2015年）には22.7%に達すると推計されています。

また、先に述べた核家族化の進行に伴い、ひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の比率も増加しており、平成15年（2003年）9月現在では、70歳以上のひとり暮らし高齢者は5,605人（総人口に占める割合1.60%）、高齢者のみの世帯は4,431世帯（総世帯数に占める割合3.01%）、翌平成16年（2004年）9月には、ひとり暮らし高齢者は6,049人（総人口に占める割合1.72%）、高齢者のみの世帯は4,888世帯（総世帯数に占める割合3.30%）と、それぞれ増加傾向が続いています。

一方、15歳未満の年少人口の割合は14.76%（「住民基本台帳」平成17年（2005年）9月末現在）となっており、昭和55年（1980年）の25.8%から大きく減少しており、少子化傾向が早い速度で進んできていることがうかがわれます。

これらのことから、今後の地域福祉を考える上で、少子高齢化と核家族化の急速な進行の中での地域での施策展開、とりわけひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯に対する支援のあり方、また、孤立しがちな子育て家庭への支援のあり方などが大きな課題となって提起されてくることが予想されます。（図Ⅱ-1-3）

図Ⅱ-1-3 吹田市の年齢3区分別人口推移(国勢調査、ただし平成17年は住民基本台帳による)



(4) 不均衡に進む各地域での変化

このような吹田市での人口や世帯数の変化が各地域でどのように現れているのかを調べるため、吹田市の183町丁（人口0の町丁除く）を人口密度と世帯数の増減に着目して表Ⅱ-1-1のとおり8つの類型に分類しました。地図に表わすと図Ⅱ-1-8のとおりです。

昭和50年（1975年）から平成12年（2000年）までの25年間の世帯数の推移を見た場合、著しく増加（2倍以上）している町丁が54地区ありましたが、市域の7つのブロック区分（図Ⅱ-1-7）での内訳をみると、JR以南地域で1地区、片山・岸部地域で5地区、豊津・南吹田地域で11地区、千里山・佐井寺地域で18地区、山田・千里丘地域で15地区、千里ニュータウン地域で4地区となっています。

また逆に世帯数が低下（1倍未満）している町丁35地区では、JR以南地域で3地区、片山・岸部地域で9地区、豊津・南吹田地域で5地区、千里山・佐井寺地域で3地区、山田・千里丘地域で1地区、千里ニュータウン地域で14地区と、地域によって大きな違いがあることがわかります。

表Ⅱ-1-1 地域類型

75～00年 世帯数	著しく増加 2.0以上	増加 1.1～2.0未満	横ばい 1～1.1未満	低下 1.0未満
人口密度				
高 10,000人以上	①39町丁 43,807世帯	②40町丁 34,991世帯	③12町丁 10,386世帯	④25町丁 20,799世帯
低 10,000人未満	⑤15町丁 8,498世帯	⑥33町丁 13,524世帯	⑦9町丁 5,406世帯	⑧10町丁 2,722世帯

(5) 高齢化の進行、年少人口にも地域差

図Ⅱ-1-4で明らかなように各ブロックの高齢化の進行にも大きな差があり、開発されてから40年を経過した千里ニュータウン地域で25.4%と最も進行が著しく、続いて古くからの中心市街地を含むJR以南地域で22.4%となっています。

高齢化率を町丁別にみた場合、25.0%以上（人口の4分の1以上が65歳以上の高齢者）の33町丁のうち22町丁が千里ニュータウン地域で占められ、桃山台3丁目41.4%など、千里ニュータウンの一戸建て住宅の区域で高い数字を示しています。（いずれも「住民基本台帳」平成17年（2005年）9月末現在）

ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯についてみれば、図Ⅱ-1-5、図Ⅱ-1-6に示したとおりいずれも千里ニュータウン地域、JR以南地域で高い割合を示していることがわかります。

一方、年少人口においては、近年、高層住宅などが建設され人口流入が著しい千里山・佐井寺地域で18.0%、山田・千里丘地域で16.4%と高い数字となっています。

このように、それぞれの地域のまちの成り立ち、形成された時期の違いや住宅形態の違いによって地域ごとで人口構成や世帯構成に大きな違いがみられ、高齢化の状況や子育て家庭の割合の違いとなって現れており、こうした地域の変化の差異が取り組むべき課題の違いをもたらしています。

以上のことを踏まえ、次項以降で述べる「吹田市民のくらしと地域福祉に関する実態調査」「地域検討会（地区の福祉を語るつどい）」等の結果を通じてその内容を明らかにしていく必要があります。

図Ⅱ-1-4
地域別年齢3区分別の人口割合（「住民基本台帳」平成17年（2005年）9月末現在）

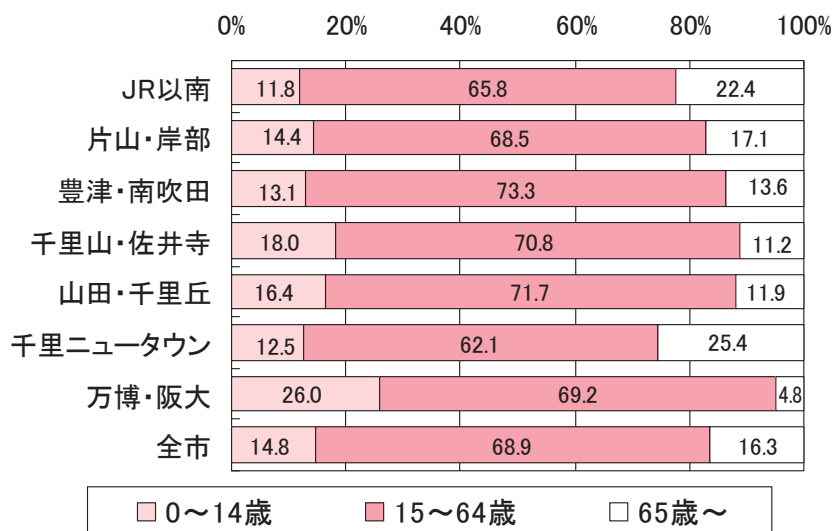


図 II-1-5 高齢単身世帯率の地域別分布図 世帯数に占める高齢単身世帯数の割合

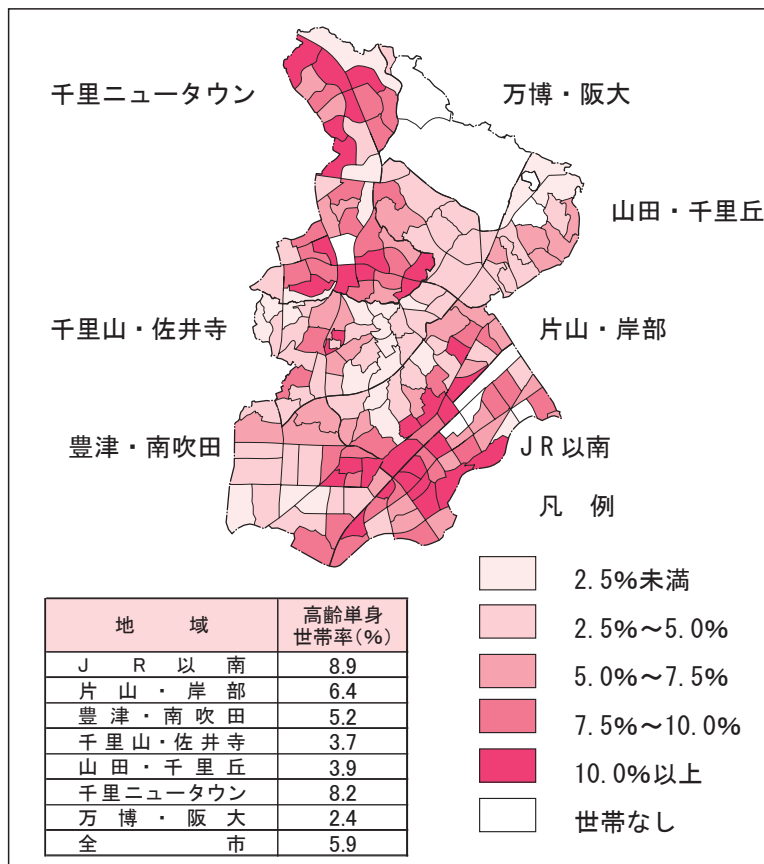


図 II-1-6 高齢夫婦世帯率の地域別分布図 世帯数に占める高齢夫婦世帯数の割合

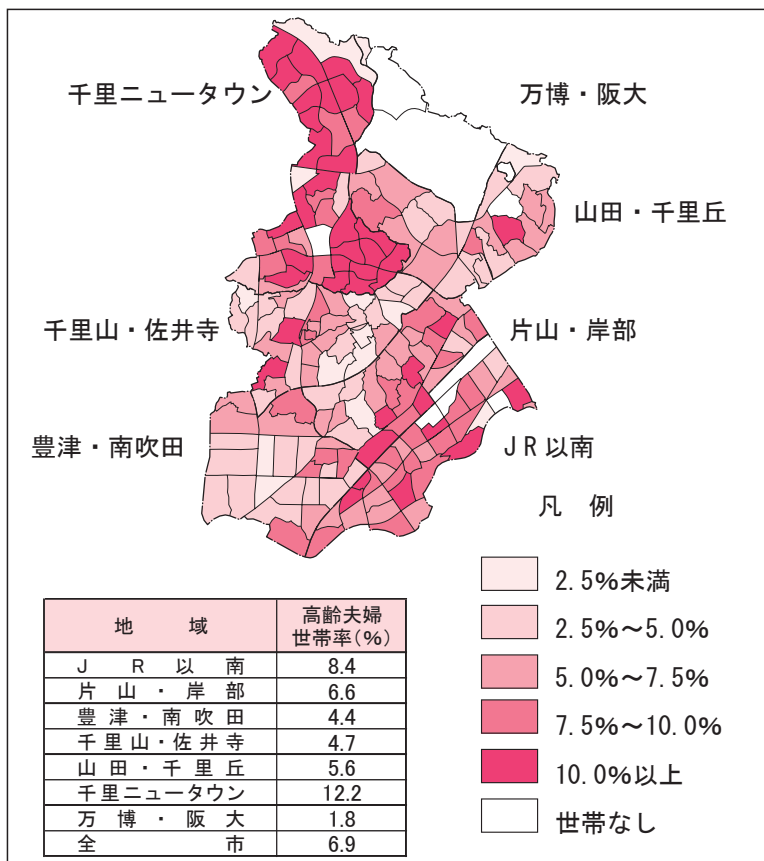
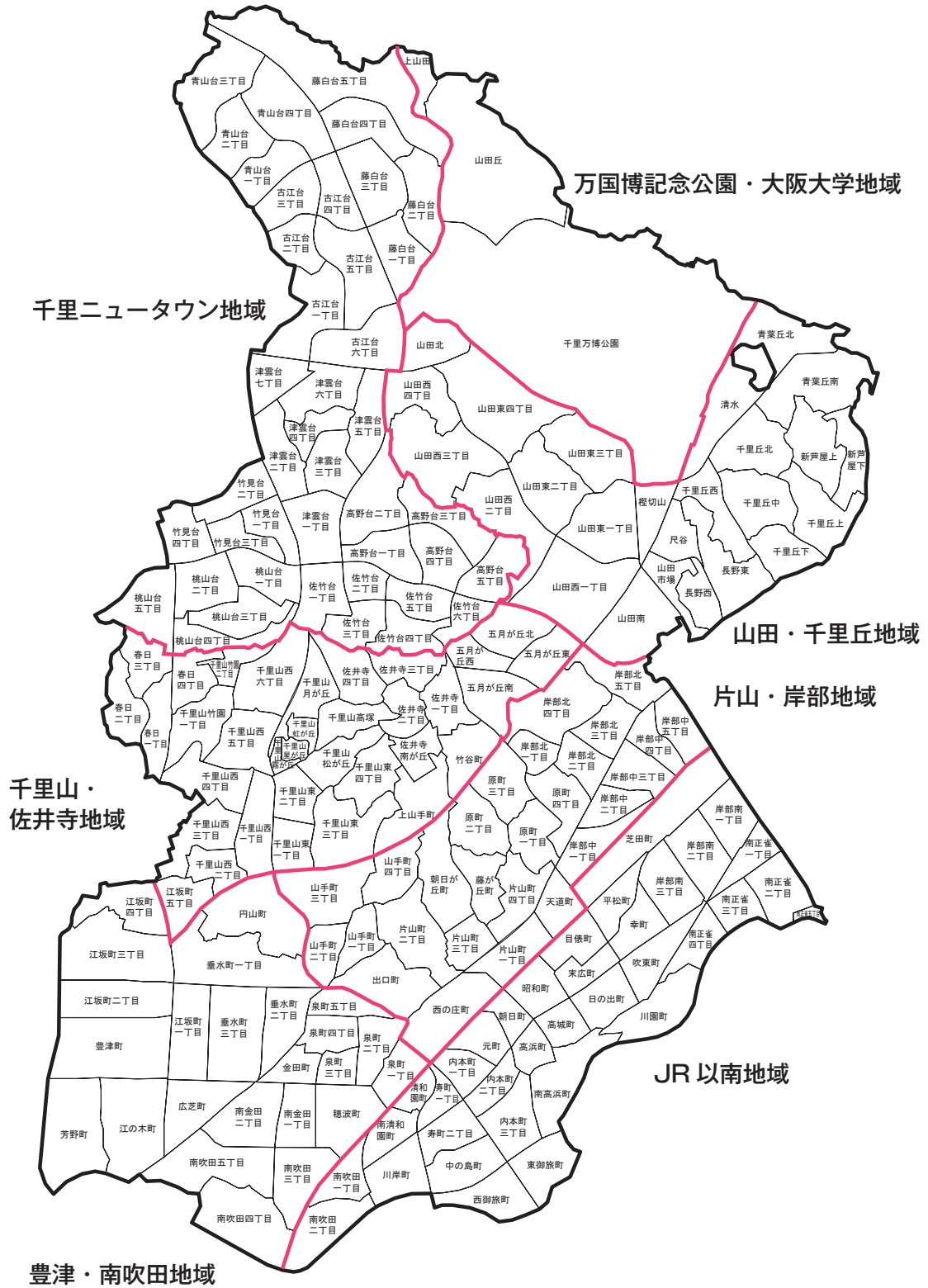
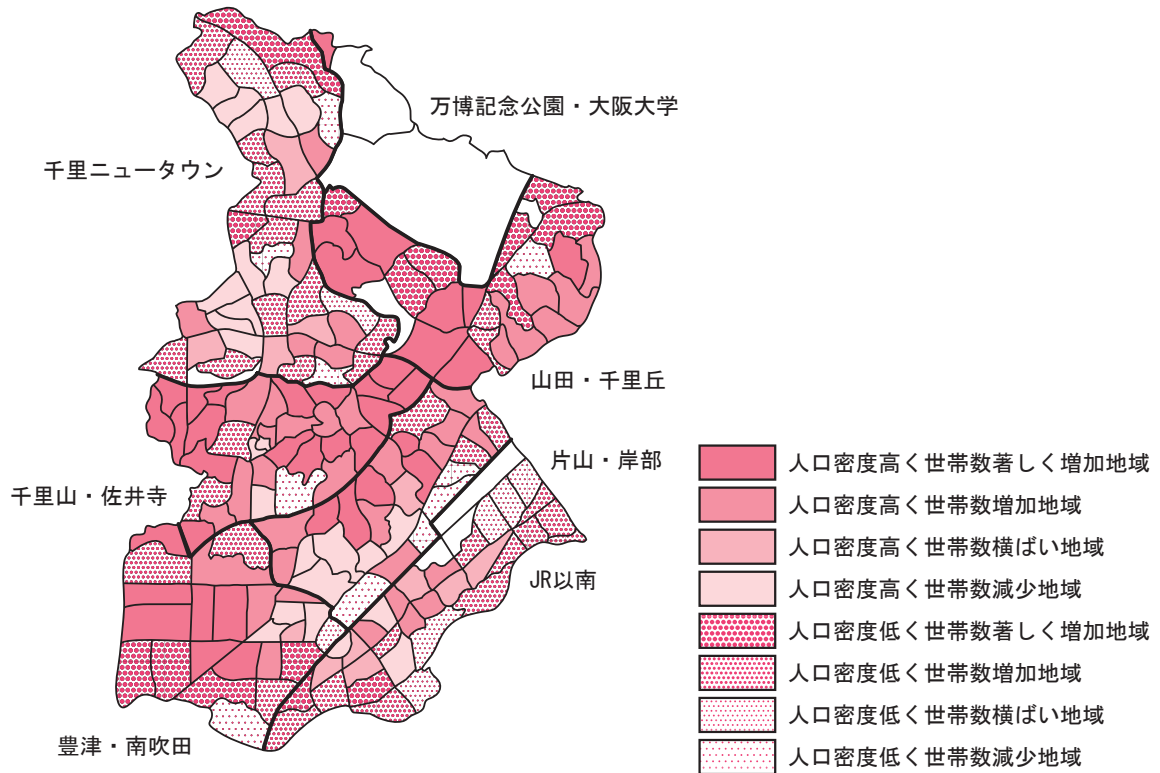


図 II-1-5、図 II-1-6ともに平成 12 年(2000 年)国勢調査による

図 II - 1 - 7 7ブロック町丁図(調査時点)



図Ⅱ-1-8
8類型分布地図



※地図中、色が塗られていない地域については、以下のとおりです。

目俵町、平松町、芝田町…2000年現在、居住者がいないため

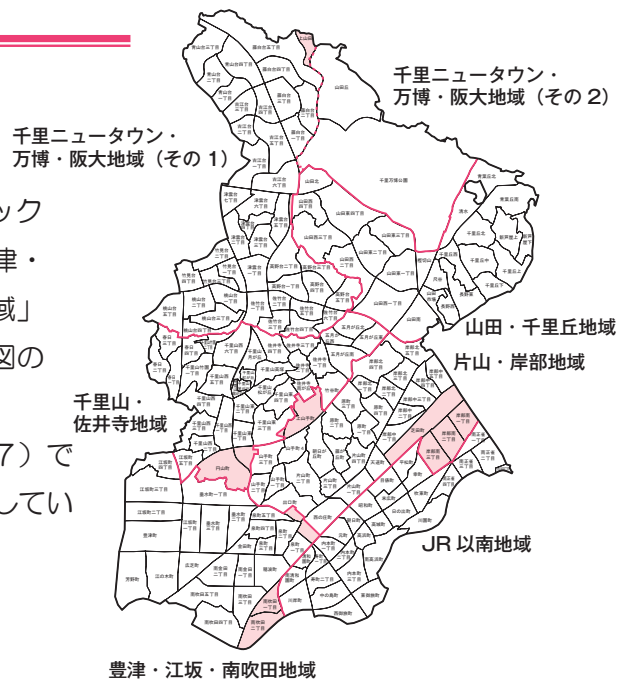
山田西2丁目、千里万博公園、山田丘、桃山台4丁目

…1975年当時に居住者がなく、世帯数の増減率を出すことができないため

注 ブロック地図について

平成18年(2006年)4月1日から、ブロック割が6ブロックに変更になり、あわせて、豊津・南吹田地域の名称も「豊津・江坂・南吹田地域」に変わりました。変更後の地図については右図のとおりです。

本計画の調査時は7ブロック(図Ⅱ-1-7)であったため本文では7ブロックの地図を掲載しています。



部分：ブロックの区割りの変更地域